2020 8.31 vol.934

JA全農ウィークリー WEEKLY

2面

「＃農家の皆さんありがとう」プロジェクトスタート（広報・調査部）

4-5面

生産者と生活者をつなぐ「みのりみのるプロジェクト」立ち上げからの10年とこれから（フードマーケット事業部）

「みのりみのるプロジェクト」で年11回発行の『AGRIFUTURE』。JAのTAC部署の推薦で生産者を取材（4-5面）

7月豪雨で被災したJAグループ山形へ復旧を願い「見舞金と支援物資」を贈る宮城県本部の高橋正会長＝左（2面）

農家の皆さんへの感謝と応援の気持ちを込め、全農のCMソング「大地のエール」を力強く演奏する千葉県の習志野高校吹奏楽部の皆さん（2面）

2 宮城県本部が7月豪雨で被災したJAグループ山形へ見舞金と支援物資贈る（山形県本部）

3 「まぜるシェイク 湘南ゴールド」販売中（神奈川県本部）

ドライブスルー朝市を開催（富山県本部）

6 技術水準と職員の資質向上目指し 第69回 研究・業務発表会（営農・技術センター）

米の物流改善に向けた フレコンの統一化へ第1回検討会（米穀部）

7 JAズームイン（岐阜：JAめぐみの）

8 「コロロ ハニーローザ」をファミリーマートで先行発売（営業開発部）

12種類の国産果実使用「12か月のジャム」新発売（麦類農産部）

JAタウンショップ紹介 JA全農ちば 愛情いちばん館

Web版JA全農ウィークリーはこちらから ▶▶▶▶▶▶▶

https://www.zennoh-weekly.jp/

Web限定

実験牧場でインターン受け入れ就農支援に取り組む（広島県本部）

今年の焼肉の日は「おうち」で楽しもう！「8月29日は焼肉の日」キャンペーンを実施（広報・調査部）

News!

響け! 大地のエール「#農家の皆さんありがとう」プロジェクトスタート

感謝と応援の気持ちを演奏動画で!!

広報・調査部

全農は8月21日、農家の皆さんへの感謝と応援の気持ちを込めた全農のCMソング「大地のエール」の演奏動画を、全農広報部の公式TwitterとYouTubeで公開しました。

このプロジェクトは、全農所属の卓球日本代表・石川佳純選手が動画で呼び掛け、コロナ禍の中でも安全・安心な農畜産物を届けてくださっている農家の皆さんへ、感謝と応援の気持ちを届ける企画です。7月31日には、石川選手がこのプロジェクトの意義や気づきを語る動画を公開しています。

今回は、石川選手の想(おも)いや企画の趣旨に賛同した千葉県・習志野高校吹奏楽部の皆さんが、「大地のエール」を力強く演奏する動画を公開。石川選手も卓球ラケットとボールでリズム隊として参加しています。

また、「全農広報部スポーツ応援」公式Twitterで、全国47都道府県のお米やお肉などの特産品が当たるプレゼントキャンペーンも実施しています。

「大地のエール」を力強く演奏する習志野高校吹奏楽部の皆さん

全農広報部 YouTube アカウント

全農広報部 スポーツ応援 公式 Twitterアカウント

届け! 47都道府県 特産品プレゼント キャンペーン 賞品紹介はこちら

News!

7月豪雨で被災したJAグループ山形へ見舞金と支援物資贈る

宮城県本部の高橋会長が来訪

山形県本部

宮城県本部の高橋正会長が8月6日、山形県本部の長澤豊会長のもとを訪れ、7月の豪雨災害により被災した組合員とJAの一刻も早い復旧を願い、JA山形中央会へ見舞金と、山形県本部に対し、支援物資を贈りました。

高橋会長は「このたび被災された組合員、そしてJAの一刻も早い復旧に役立ててほしい」と述べられ、受け取った長澤会長は、「大変ありがたい。支援物資については、日々作業に当たっている組合員やJAへ、復旧の励みとなるよう配りたい」と感謝の意を示しました。

宮城県本部から贈られた支援物資は、パックごはん(宮城県産ひとめぼれ)200ケースと、スポーツ飲料600ケースで、いずれも被災したJAへ配られます。

復旧を願い「見舞金と支援物資」を贈る高橋会長(左)

News!

「まぜるシェイク 湘南ゴールド」販売中

モスバーガー、JAかながわ西湘と共同開発

神奈川県本部

神奈川県本部とJAかながわ西湘、株式会社モスフードサービスは8月14日、湘南ゴールド果汁を使った新商品「まぜるシェイク 湘南ゴールド」を、東京都と神奈川県のモスバーガー233店舗で発売しました。

㈱モスフードサービスが地元愛をテーマに地産地消や地域活性化を応援する取り組みで、全国各地の食材を使った「まぜるシェイク」を地域限定で販売しました。

今回先頭を切って発売された「まぜるシェイク 湘南ゴールド」は神奈川県本部が果汁加工した湘南ゴールド（JAかながわ西湘産）を使用しており、15万食限定の販売です。

華やかな香りが人気の湘南ゴールドのソースと、甘さ控えめで飲みやすいモスバーガーのバニラシェイクが調和した夏にぴったりの商品です。

湘南ゴールド生産部会「SG21」の会長を務める榎本昌之さんは「このシェイクを機に、湘南ゴールドのさらなる知名度向上につながればうれしい」と期待を寄せています。価格は税抜きでSサイズ269円、Mサイズ344円です。

店頭ポスター

「まぜるシェイク 湘南ゴールド」をアピールする湘南ゴールド生産部会「SG21」の榎本会長（左）と（株）モスフードサービスの佐藤善行さん

News!

ドライブスルー朝市を開催

“3密”を回避した新しい販売方式で県産農畜産物の消費拡大へ

富山県本部

富山県本部と株式会社JAライフ富山は7月25、26の両日、富山市の富山県本部生活センター敷地内で、ドライブスルー朝市を開きました。

この取り組みは、新型コロナウイルス感染拡大防止と社会経済活動の両立が求められる中、ドライブスルー形式で車に乗ったまま3密を避けて購入ができる「新しい販売スタイルの提案」をテーマに、チャレンジしたものです。

今回は県産にこだわり、タマネギやトマト、白ネギなどの野菜、牛肉、「富富富」のごはんパック、焼酎の他、生活用品など30品目を取りそろえました。

当日は、職員が感染防止対策を徹底し、注文から商品の精算・積み込みまで、人との接触を最小限に抑えながら実施しました。

2日間で、400台を超える多くのお客さまに来場いただきました。

多数取りそろえた富山県産野菜

商品をお客さまの車に積み込む職員

『AGRIFUTURE』で紹介した生産者や農産物をTACや生産者らが地元の言葉で紹介

みのりみのるマルシェをJR大阪駅アトリウム広場（左）やJR広島駅北口で開催

コンセプトは「食べて知ることで日本の農業をまるごと味わう」。フェリシモと共同で選定・開発した商品をストーリーとともに販売

国産農畜産物・加工品の販路拡大 食料自給率向上を目指して

「みのりみのるプロジェクト」の直近の取り組みとしては、2019年4月に大手通販事業者・株式会社フェリシモと共同で立ち上げた「純農プロジェクト」の展開があります。

「純農プロジェクト」では、フェリシモ会員向けの通販カタログや「純農」ウェブサイトを通じて、「日本の農業を元気に!」を合言葉にJAグループが生産する国産農畜産物を主原料とした商品にこだわった販売をしています。

この取り組みでは、通販・ECチャネルの特性を生かし、全国の多種多様な商品をテーマに応じて組み合わせて販売することで、会員の皆さまに各産地の強みを訴求しています。

例えば、「ご当地レトルトカレーの食べ比べセット」「お手軽パックごはんと野菜スープ」などのセット商品や、出荷の際に廃棄されるセロリの葉などを活用して開発された7種類の乾燥野菜パック「セロリズッペン」などはJAグループらしい商品として、フェリシモ会員の皆さまにご好評をいただいています。

「純農ブランド」の7種類の野菜をブレンドした乾燥野菜パック「セロリズッペン」

今後も、「純農プロジェクト」では、各産地の特徴的な商品の掘り起こしや手に取ってもらいやすいセット企画など純農オリジナル商品の開発を進めていきます。皆さまにもぜひ一度「純農プロジェクト」ウェブサイトをご覧いただき、「こういった商品は純農で売れるのではないか」などのご提案をいただければ幸いです。

純農プロジェクトはこちら

「みのりみのるプロジェクト」ホームページやSNSはこちら!

公式ホームページ

公式 Instagram

生産者と生活者をつなぐ「みのりみのるプロジェクト」

立ち上げからの10年とこれから

全農が2010 年に始動した「みのりみのるプロジェクト」。国産農畜産物にこだわった飲食店の展開と同時に、農業の魅力を伝えるフリーペーパーの発行や消費地でのマルシェの開催、他企業と連携した商品開発など、さまざまな事業に取り組んでいます。

フードマーケット事業部

JAのTAC部署の推薦に基づき、発行の2カ月ほど前に生産者を取材しています。公式サイトでは、取材した生産者の言葉や地域の特産物の生産風景などを動画で紹介しています

日本農業の魅力を伝える『AGRIFUTURE』と「みのりみのるマルシェ」

『AGRIFUTURE』は、日本農業や国産農畜産物の魅力を消費者に伝え、より地域や農業に目を向けてもらうべく年11回発行、各直営店舗などを通じて消費者に配布しているフリーペーパーです。毎月1JAにスポットを当て、生産者の想(おも)いや地域の特産物、文化や歴史などを現地で取材し冊子に取りまとめ紹介しています。

「みのりみのるマルシェ」は、『AGRIFUTURE』で紹介したJAの特産品などを銀座三越の9階特設会場で、生産者やJA職員自らが店頭へ立ち直接お客さまに販売する取り組みです。隣接する「みのりみのる店舗」では、マルシェ販売商品を使用した限定メニューを提供しており、これら「知る・買う・食べる」という一貫した取り組みを通じて旬の食材や地域の素晴らしさを伝えています。

「みのりみのるマルシェ」については、東京銀座以外にも徐々に展開エリアを拡大しており、大阪・広島駅でも定期的に開催しています。

①JR大阪駅アトリウム広場：JR西日本と締結した「地域連携協定書」に基づき、西日本地区の産地・JAを対象に年10回程度開催。

②JR広島駅北口：JR広島駅・広島県本部との共同開催。広島県本部「とれたて元気市」の新鮮な青果物や加工品を中心に毎月開催。

※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、『AGRIFUTURE』の発行、「みのりみのるマルシェ」の開催についてはやむを得ず中止する場合があります。

News!

技術水準と職員の資質向上目指し研究・業務成果を発表

第69回 研究・業務発表会を開催

営農・技術センター

営農・技術センターは8月5日、神奈川県平塚市にある同センターで「第69回研究・業務発表会」を開きました。

発表会は、①各業務の相互理解と技術交流の促進②技術水準の向上と業務改善③職員の資質向上と教育研修――を目的に毎年開いています。

今回は、栽培技術・生産資材・分析手法に関する研究開発、電気事業の取り組みなど7つのテーマで発表がありました。また、耕種総合対策部の学位取得促進要領を活用し、今年3月に工学博士を取得した中田有祉職員が、「輸出用鮮度保持資材MAパレット開発（イチゴを中心に）」と題して記念講演を行いました。センターに来場できなかった本所関連部署の職員にもウェブ配信をしました。

内容ごとに事業反映に向けた展開が整理され、参加者から質問も多数あり、活発な発表会となりました。

研究内容を説明する発表者

第69回研究・業務発表会の発表概要

発表テーマ	発表部署
JAでんきと見る新電力市場の現状と電気料金の考え方	エネルギー研究室
ブロッコリーはどこまで大きくできるか?	農産物商品開発室
省力的な水稲育苗用樹脂培地の開発	肥料研究室
新規ウンカ剤ピラキサルト™がヒメトビウンカの吸汁行動に及ぼす影響	農薬研究室
迅速一斉分析法（穀類）の改良について	残留農薬検査室
段ボール箱の適正包装化への取組み ～強制通風予冷方式における段ボール箱の通気穴の見直し～	生産資材研究室
営農・技術センターにおける保健衛生に関する取り組み	管理・講習課

News!

米の物流改善に向けたフレコンの統一化を目指す

玄米の推奨規格フレコンを活用した物流効率化実証に係る第1回検討会を開催

米穀部

米穀部は7月14日、東京・大手町のJAビルで農林水産省の推奨規格フレコンを活用した玄米の物流効率化実証に係る第1回検討会を開きました。

米の流通において、トラックドライバーの負担となっている手荷役を軽減し、輸送力の確保を図るため、各方面から計8人の検討委員に参加いただき、農林水産省の推奨規格フレコンを活用した物流効率化の検討を行いました。検討会では、主にフレコンの規格統一への期待、実証実験の進め方、フレコン流通におけるQRコードおよびRFID（ICタグに搭載された情報を、無線通信により認識する技術）の活用について議論しました。検討内容を踏まえ、今後物流効率化に係る実証試験を行い、結果について今年度中に取りまとめます。

全農は、全国でフレコン統一出荷を進め、米の輸送合理化を目指します。

米の物流改善に向けたフレコンの統一化を目指し開かれた第1回検討会

JAズームイン

連携・情報発信を駆使 労働力確保で産地支援

JAめぐみの（岐阜県）

概要	令和2年3月末現在
正組合員数	2万9390人
准組合員数	3万2246人
職員数	1327人
販売品取扱高	66億円
購買品取扱高	101億円
貯金残高	6025億3千万円
長期共済保有高	1兆2842億2千万円
主な農畜産物	ダイコン、トマト、ナス、サトイモ、イチゴ、飛騨牛

JAめぐみの、岐阜県の中央に位置し、5市8町村からなり、県土の23%を占めています。また、北部と南部では標高差が大きく、異なる気候を利用してさまざまな農産物が生産されています。

農福連携で特産品の栽培面積を拡大

本店がある関市を中心とする中濃地域では、煮崩れしにくく、丸い形が特徴の「円空さといも」や甘みと酸味のバランスがとれた「ほらどキウイフルーツ」が栽培されていますが、後継者や労働力の不足による栽培面積の減少が大きな課題になっています。

そのため、2017年から地元の障がい者就労継続支援事業所である「株式会社DAI」に農作業の一部を委託。農福連携による課題解決に取り組んでいます。

この連携は、同社が県・農業普及課を通じ、冬場の就労機会を求めて相談したのがきっかけ。初めは円空さといもの収穫や調製作業を依頼し、19年度は全生産量の約2割（27トン）を委託するまでになりました。生産者からは「まじめで丁寧な仕事ぶりに感謝している。おかげで栽培面積を5倍にできた」などと好評。この成果を生かし、ほらどキウイフルーツの袋詰めの委託も始まりました。

農福連携を中心になって進めた中濃営農経済センターの武藤保課長は「農福連携は、産地の活性化や労働力確保に直接つながる。担い手や集落営農との連携をさらに進めることで農業経営を支援する取り組みとなるよう今後も継続していきたい」と話します。

農福連携に携わった農家、株式会社DAIの皆さんとJA職員

調製作業で「円空さといも」の毛羽取りをする株式会社DAIの従業員

各メディアを使った労働力確保に尽力

「ひるがの高原だいこん」や夏イチゴ、トルコギキョウなどの花卉（かき）の産地である郡上市高鷲町でも、地域の基幹産業として栽培面積や出荷量の増大を望んでいる一方、後継者・労働力不足の問題が深刻化し、出荷のピークを迎える夏の時期には人手が足りず、安定供給ができない状況になっています。そこで、同JAは各生産組合の代表自らが出演し、収穫・出荷作業への協力を呼び掛けるCMを制作。地元ケーブルテレビや動画共有サービスYouTubeで公開しており、多数の問い合わせを得て、数件のマッチングが成立しています。

また、県内4JAの農家の求人情報を掲載したウェブサイト「ぎふの農業って楽しいやん！～岐阜の農業で働こう～」への掲載や、求人誌での特集取材など、さまざまな媒体を使い労働力不足の解消に向けて多様な活動を展開しています。

収穫・出荷作業への協力を呼び掛けるCMを紹介する職員

あぐりずむ
JA全農提供FM番組（TOKYO FM／JFN38局）
毎週木曜日15:50～16:00（放送時間はFM局で異なります）
国産農畜産物の魅力や美味しさをお届けします!

「コロロ ハニーローザ」を ファミリーマートで先行発売

UHA味覚糖と全農が共同開発

営業開発部は、UHA味覚糖株式会社と共同で、「幻のすもも」と呼ばれる「ハニーローザ」を使用した新感覚グミの「コロロ」を、8月25日から全国のファミリーマートで先行発売しました。【営業開発部】

「ハニーローザ」は毎年6月上旬から中旬の間でわずか10日間ほどしか収穫することのできない、希少な「すもも」です。なめらかな肉質が特長で、小ぶりな実にギュッと凝縮された甘さと酸味のバランスが抜群です。

産地の熊本県玉東町（ぎょくとうまち）は豊かな土壌と水に恵まれ、果樹栽培が盛んな地としてハニーローザの生産を開始し、今では日本一の栽培面積と生産量を誇っています。

今後もUHA味覚糖と共同開発し、国産農畜産物を消費者の皆さまにお届けするとともに、国内農業の振興に取り組みます。

全国のファミリーマート
約1万6600店で販売

12種類の国産果実使用「12か月のジャム」新発売

月替わりで旬のフレーバーを展開

麦類農産部は8月から、全国の生協共同購入企画などを中心に「12か月のジャム」シリーズを販売しています。【麦類農産部】

「12か月のジャム」はすべて国内産の果実を使用し、それぞれの果実の旬に合わせて月替わりにフレーバーを展開するシリーズ商品です。9月は「栗」、10月に「ラ・フランス」、4月には「河内晩柑」など、12種類の国産果実を使ったジャムを、果実の旬とともにお楽しみいただけます。

また、12か月のジャムシリーズでは、商品ラベルに記載されている二次元コードにスマートフォンをかざすと、専用サイトから商品の詳細や果実の産地、お勧めの食べ方などを見ることができます。公式サイトから月ごとのジャムの詳細もご覧になれます。

国産果実使用の「12か月のジャム」

「12か月のジャム」公式サイトはこちら

JA全農のインターネットショッピングモール
JAタウンショップ紹介

JA全農ちば 愛情いちばん館

シャインマスカットは、その見た目の美しさから「みどりの宝石」と呼ばれる人気のぶどうです。マスカットの芳香を持ち、種無しで皮ごと食べることができます。大粒の実をひとつ頬張ると、「パリッ!」とした食感とともに、甘さと香りが口の中に広がります。

愛情いちばん館では、九十九里浜の温暖な気候で育まれた千葉県旭市飯岡地区産のシャインマスカットをお届けします。ハウスで丁寧に栽培し品質を管理。1房ずつ糖度を測り、一番下の実が糖度16度以上になってから収穫しています。

みどりの宝石「シャインマスカット」1房・700g……4570円

ご注文はこちらから

▶ JAタウンはこちらから https://www.ja-town.com
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

発行／全国農業協同組合連合会　2020年（令和2年）8月31日発行（毎週月曜日発行）
第3330号　編集・発行人／広報・調査部　新妻成一
〒100－6832 東京都千代田区大手町1丁目3番1号JAビル　TEL03（6271）8055

『JA全農ウィークリー』のツイッターはこちらから

私たち全農グループは、生産者と消費者を　安心で結ぶ懸け橋になります。